

研究部だより

秋田県立栗田支援学校

研究部 第3号

令和5年11月7日発行

先日は、高等部総合サービス科全校授業研究会へのご協力ありがとうございました。授業協議では、生徒への手立てや環境設定の工夫、授業改善に向けた具体的なアドバイスなど、多数のご意見をいただきました。今後の授業改善に生かしていきます。今回の研究部だよりでは、授業の様子や授業協議での助言内容などを紹介します。学習指導案を校務支援システムに掲載しますので、ご自由にご参照ください。

10月25日(水)	高等部総合サービス科1年 福祉 入浴介助 ～手浴～
題材について	本題材は、福祉科「生活援助技術」の入浴に関する題材である。手浴は、全身入浴できない利用者さんの皮膚を衛生的に保ち、気持ちよい感覚を味わい、安眠できるようにすることを目的として行う。 <u>手浴を互いに経験し、気持ちよさを味わったり、「気持ちよかったよ、ありがとう」と言われたりする学習活動</u> は、福祉に興味をもち、楽しさを感じるために有効であると考え、本題材を設定した。
目指す姿 ねらい	①衛生や気持ちよさを感じるポイントを理解し、具体的に説明しながら実践する。 ②相手が心地よさを感じられるような会話をしながら手浴する。

[対象生徒の姿①]

手浴の手順を理解し、内容を丁寧に説明しながら介助していた。



[対象生徒の姿②]

相手の様子を見ながら、自ら会話を始める姿が見られた。

[グループ協議での意見] ～生徒の姿の解釈と授業改善に向けたアイデア～ (生徒の姿への解釈)

- ・これまでの経験の積み重ねが生徒の前向きな姿勢へとつながったのではないか。
- ・グルーピングの工夫により、生徒が安心して介助や会話をする姿へとつながったのではないか。

(授業改善に向けたアイデア)

- ・介助する体験を積み重ね、様々な人から評価を受ける機会を設ける。
- ・友達の様子を見たり、記録を見直したりする機会を通して、自身の介助を改善する機会を設ける。

[指導助言]

介護福祉士／本校福祉科外部講師 三浦 洋子 様

- ・生徒たちの意欲的な姿に感心した。相手のことを考えて介助しようとする姿が見られた。
- ・介助する際はお互いに安楽な姿勢で行うことが大切。環境設定の仕方を工夫できるとよい。

県教育庁特別支援教育課指導主事 工藤 智史 様

- ・授業終わりに、「(手浴介助を)リベンジしたい」と生徒が話していた。自分の課題を見付け、次時への意欲が見られ、学びのある授業だった。
- ・介助者(介助をする人)と利用者(介助をされる人)の両方を体験することで、自己評価や他者評価につながり、学びを実感する機会ができていた。教師が「どうして? どういうこと?」と考えを深める発問をしたことで、学びが深まっていた。
- ・先輩からアドバイスを受ける機会などを設け、介助する経験の幅を広げてみてはどうか。そのような活動の中で、自ら考え、気づき、表現する機会を大切にしてほしい。
- ・この学習が学校祭での活動にも大いに関連している。指導案にもぜひ表してほしい。